



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

## 令和元年度 第1回人権教育主任研修会

令和元年5月20日(月)実施

### 研修Ⅰ【講義】性の多様性を知る～生徒や同僚との向き合い方～

講師：暁project代表 一般社団法人結婚ポータルサポート協会理事 大久保 暁 氏

#### 性の在り方の4要素

- ① からだの性、身体的な性、生物学的な性  
性別は、男と女の2種類であるという理論を「男女二元論」という。
- ② 好きになる性、性的指向 Sexual Orientation  
恋愛、性愛の対象がどこに向いているか。
- ③ 思う性、性同一性(性自認) Gender Identity  
自分の性をどう認識しているか。
- ④ 表現する性、性別表現  
服装、話し方、髪型、振る舞いなど社会的性を自分でどう表現したいか。

#### カミングアウトされた場合の対応

- 言ってくれたことに感謝する
  - 認める
  - 話をしっかり聞く
  - 性的指向や性自認を決めつけない
  - 「できることはある？」と聞く
  - 「困っていることはないか？」と聞く
  - 他の人には勝手に話さないと安心させる
- アウティングは絶対にしてはいけない**
- ※ LGBTなどに対して、本人の了解を得ずに、公にしていない性的指向や性同一性等の秘密を暴露する行動のこと

知る⇒気付く⇒考える⇒行動することが大切である

#### LGBTとは

- ① Lesbian(レズビアン)
- ② Gay(ゲイ)
- ③ Bisexual(バイセクシュアル)
- ④ Questioning(クエスチョニング)
- ⑤ Asexual(アセクシュアル)
- ⑥ Pansexual(パンセクシュアル)
- ⑦ Transgender(トランスジェンダー)
- ⑧ Questioning(クエスチョニング)
- ⑨ Xgender(エックスジェンダー)

#### SOGIとは

Sexual Orientation  
性的指向

Gender Identity  
性同一性

4つの頭文字をとった言葉で、性的少数者の連帯を表す

全ての人を含む概念

自分の当たり前はみんなの当たり前ではない



#### 学校での体制づくり

- 1 教職員のLGBTに関する理解
- 2 全員「さん」に統一
- 3 不必要な性別欄は取り除く
- 4 児童生徒のLGBTに関する理解
- 5 環境整備
- 6 差別的言動への対処
- 7 一人一人の個性を大切にする

特別扱いは必要なし！

### 研修Ⅱ【実践発表】人権教育の実践報告～成果と課題～ 高知市立神田小学校 高石 昌諭 教諭

- 取組の目的** 学校における組織的・計画的な人権教育を推進し、人権尊重の視点に立った学校づくりのための取組が行われるように、専門性やマネジメント力を高める。
- 取組の具体**
- (1) 神田小学校の人権教育について
    - 人権と人権問題について ○地域教材を用いた人権学習 ○神田小の人権教育の強みと弱み
  - (2) 授業実践
    - 心のバリアフリー(5年生) ○すみやすいまち たんけんたい(3年生)
    - 子どもの実態把握・地域の願い・教職員の願い→印象的な出会い→関わり合い・学び合い→行動化を目指す
  - (3) 人権が尊重された学校づくりチェックリスト
- 研究成果** 人権教育の全体計画を作成することができた。年間計画の見直しや系統性を意識した地域教材の研究・実践を進めていく目途が立った。教職員の人権感覚の高揚を目指し、ニーズに合った研修を実施していく必要がある。

#### 【受講者の感想】

- ・ 自分の身の回りを思い返してもこれまで出会ってきているのだらうなと思った。やはり、普段から人権感覚や意識を研ぎ澄ましていないと気付かなければいけないことに気付かずに過ごしていくことになるということを感じた。
- ・ LGBTの人権課題については、子どもたちに伝える必要があると感じながらもアプローチの仕方が今一つ分らなかったが、ぜひ学校にもお呼びして、講演をしていただきたいと思った。

授業研究で大事にしたいこと



- ★ 1時間の授業には、それまでの学級づくり、授業技術、教材研究など全てが表れるので、その授業までの準備が大切。
- ★ 単に1時間の授業のよし悪しを語っているだけでは、授業力は伸びないので、単元全体として授業を捉えることが大切。
- ★ 授業づくりに連続性・継続性をもたせることが大切。

自分の授業の課題は何かを考え、明日から取り組めることを実践しよう。



授業づくりの10のポイント



① 授業ははじめと終わりのあいさつはリズムよく

「しせい」の合図で、静かになった「しん」という音が聞こえたら始める。  
 （「しせい」の後、身体を動かしているようなら、「しせい」の意味や言葉の徹底を）

② 明確なねらいをもった机間指導

- ・ 子どもの学びの状況を確認する。
- ・ 子どもを評価し、支援する。
- ・ 次の授業展開の構想を練る。

③ 誤答を生かす

- ・ 授業とは、分からなかったことを分かるようにする営みである。
- ・ 教師が正解ばかりを取り上げていると、子どもは、間違えることを恐れる。
- ・ ときには教師がわざと間違えることも必要。

④ 一問一答から一問多答型の授業に

- ・ 子どもから多様な発言を引き出す発問を考える。
- ・ 「教師→子ども→教師」となる教師経由型の授業をやめる。
- ・ 複数の子どもを指名して、子ども同士で発言をつないで発表させる。

⑤ 子どもの意欲を引き出す指名

- ・ 挙手をした子どもの発言だけで進める授業から脱却する。
- ・ 列で指名したり、複数の子どもを指名したりするなど、指名の仕方を工夫する。
- ・ 机間指導の際、どのような順で指名するのかを考えられるようになれば上級。

⑥ 子どもの意欲を引き出す学習課題の提示

- ・ 「○段落を読み取ろう」
  - ・ 「イソギンチャクが、ヤドカリの貝がらにつく理由を読み取ろう」
- ↓ 「なぞかけ風」課題に
- ・ 「イソギンチャクがヤドカリの貝がらにつく利益はいくつあるの？」

よくある問いを子どもが考えたいくなる問いに

⑦ 話し合い活動に対話を取り入れる

- ・ どの子どもにも、発言する機会を保障することができる。
- ・ 友達に一度聞いてもらうことによって、全体での話し合いも自信をもってできる。
- ・ ペア対話の仕方を指導することが大切。  
 （共通点・相違点・質問・意見など双方向で）

⑧ 向上の変容がある授業を目指す

- ・ ～が分かった。（知識の習得）
- ・ ～ができるようになった。（技術の習得）

振り返りに、上のどちらかが書ける授業を

⑨ 思考を深める(学習を深める)発問を工夫する

- ・ 子どもたちの知的好奇心をゆさぶる発問。
- ・ 子どもたちの考えを否定し、新しい考えを引き出す発問。
- ・ 課題に直結する発問。

⑩ 授業の振り返りは、必ず書かせる

- ・ 書くことで、本時の学びが確かなものになる。
- ・ 書くことの力は、書くことによって身に付く。
- ・ 学習の振り返りは、子どもに授業を理解させているかという、教師にとっての評価でもある。

【受講者の感想】

- ・ 「話し合い活動に対話を取り入れる」ことを意識して行い、どの子どもにも発言する機会を保障することができる授業に変えていきたいと思った。自分の意見をもつことが苦手な子どもに対しても、「ぼくは、答えが分からなかったけど、〇〇さんの意見を聞いて△△と思いました。」と言えるだけでも、立派な発表になることを伝え、発表する子どもたちの数を増やし、一つ一つの授業を子どもと一緒に作るようにしたい。
- ・ 今日の研修から、三つのことを実践につなげたい。まずは、授業のはじめと終わりをテンポを行うようにし、「しせい」の意味を子どもに指導してルールを決めたい。次に、一問多答を実現できるよう、複数指名を実践してみたい。最初は戸惑うので、二人目の子どもの発言の、最初に言えたらよい言葉（～さんと同じで、少し違って）など提示したうえで、実践してみたい。そして、振り返りを「書く」ことで行えるよう改善したい。「書く」力を育てるとともに、振り返りによる学習の定着につなげたい。